

本学在学学生・卒業生の ロンドンオリンピック 2012結果報告

大学広報課

7月27日から8月12日まで開催されたロンドンオリンピックに、本学在学学生1名・卒業生4名が選手として出場した。

太田雄貴選手の銀メダルを筆頭に、それぞれが活躍し大きな興奮と感動を与えてくれた。以下、結果。

在学学生

競 技	氏 名	結 果
競 泳	高 野 綾 さん (スポーツ健康科学部 1年次生)	◇女子400m自由形 4分12秒33 予選敗退 ◇女子800mリレー 8位 日本(高野、上田、伊藤、松本) 7分56秒73

卒業生

競 技	氏 名	結 果
フェンシング	太 田 雄 貴 さん (2008年商学部卒業)	◇男子フルーレ個人 3回戦敗退 ◇男子フルーレ団体 2位 日本(太田、三宅、千田、淡路)
	池 端 花奈恵 さん (2005年商学部卒業)	◇女子フルーレ個人 8位 ◇女子フルーレ団体 7位 日本(池端、菅原、平田、西岡)
陸 上	我孫子 智 美 さん (2010年社会学部卒業)	◇女子棒高跳び 4 m25cm 予選敗退
トライアスロン	足 立 真梨子 さん (2006年商学部卒業)	◇女子 14位 2時間2分4秒

同志社の建物を描く
—退職記念の個展で元中学校・高等学校教諭 谷川修三
たにがわしゅうぞう

今年の3月に、41年間勤めた同志社中学校・高等学校を退職しました。この機会に、在職中に依頼されて描いた『同志社時報』101号〜132号の表紙絵の原画や、折にふれて描いていた今出川キャンパスの風景画などを皆様にご覧いただけたらと思います、個展を開かせていただきました。

卒業生の方々と既に退職された先生方に、ご案内を差し上げました所、懐かしい思いを持って見てくださっていました。また、通りがかりに看板を見て立ち寄ってくださった方の中にも、ご自身が卒業生であつたり、ご子弟やご身内の方が卒業生、あるいは在学中という方も多くいらつしました。さらに、同窓の方から聞き伝えて来てくださった方々が会場で待ち合わせをされる等、さながらミニ同窓会の様相を呈することもしばしばで、同志社ファミリーという言葉であらためて実感させられるような時間でした。

今回の個展が私自身の教員生活の締めくくりであると共に、同窓

生の方々に何らかのお役に立てたのかなと嬉しく思っています。

京料理
食事マナー体験

女子大学



「同志社女子大学ブランド構築アクションプラン」の取り組みの一つとして、京料理食事マナー体験を今年度初めて、実施しました。本行事では、在學生が京料理の老舗「六盛」において、お座敷での立ち居振る舞い、お箸の扱い方、会席料理のいただき方など、実際に食事をしながら日本文化の礼儀作法を学びました。食事のマナー



は生活の基本であり、日本人が代々大切に受け継ぎ、築き上げたもので、社会における教養と品格を裏付けるものの一つでもあります。

更に、日本文化に触れ、学び、身につけることは、自らのアイデンティティを確立するための一助となることも期待されます。また、「国際主義」を建学の理念の一つ

に掲げる本学においては、国際的な場面でも、自国の文化について発信できる人材を育成することにもつながります。

新入生オリエンテーションの一環として、4月に生活科学部の1年次生約270名を対象に実施しました。衣食住を学ぶ学生にとっては、日本の食文化の真髄に触れ、しきたりに親しむ良い機会となりました。また7月には全学部学科生（生活科学部1年次生を除く）を対象に実施、定員の100名を超える応募があり、学生たちの関心の高さがうかがえました。

※ブランド構築アクションプラン

本学のブランド価値の向上と教職員意識向上等を目的とし、2006年度よりブランド構築ワーキンググループを発足。現在はブランド管理委員会において継続的な取り組みを進めています。同志社関係科目のカリキュラム拡充や、名札、クレド（信条を掲載した携帯型リーフレット）の作成などのさまざまな具体的アクションプランを実施しています。

同志社中学校・風間浦中学校 交流20周年を迎えて

中学校・高等学校副校長 たけやまゆき お 竹山幸男

2012年2月、本校の生徒会代表8名が「交流20周年記念行事」参加のため、風間浦中学校・風間浦村を訪ねました。これまで20年間、風間浦中学校2年生の皆さんは、同志社体験プログラムで毎年秋の学園祭時に本校と大学を訪問し、5年に1度、同志社中学校生徒会代表が風間浦中学校を訪問する交流が続けられてきました。

『9月の交流から4ヶ月ほどがたち、風間浦中学校の皆さんと再び会えることをとても楽しみにしていました。風間浦は思っていたよりも遥かに雪が積もっていて、壮大な自然にただ見とれていました。そして3日目、風間浦中学校の皆さんとの交流。歓迎にあたっての素晴らしいソーラン節や合唱細部まで工夫された村や学校の紹介や遊びなど、55名の生徒全員が笑顔で優しく接してくれました。最後のセレモニーで、私は同志社中学生代表として両校の友好宣言に署名しました。同志社と風間浦

のつながりは私の想像以上に強いのだと実感しました。そして、これからも末永く続くことを願いました。』(同志社中学校生徒会長平岡瑞貴さんの言葉より)

訪問期間中は、メインイベントの風間浦中学校との交流会の他に、村の皆様のご協力により、蛇浦小学校訪問、わいどの木での林業体験、漁港での漁業見学やふのり採取体験、新島先生寄港記念碑前での礼拝、全国的にも有名なアンコウ祭りへの参加など、風間浦村のすべてを丸ごと体験できる研修をご準備いただきました。また、佐賀旅館に宿泊し、隣接している「大湯」とあわせて、新島先生も入られた下風呂温泉のお湯にひたりながら、風間浦での新島先生の足跡を思い巡らしました。また、この交流会の際に、新島先生が風間浦に立ち寄る前に寄港した岩手県宮古の中学校へ、風間浦中学校が東日本震災後に応援メッセージを書いた幕を贈ったことを生徒会長が

聞いたことがきっかけとなり、1ヶ月後の3月に、同志社校友会岩手支部の皆様のご協力も得て、新旧生徒会長が宮古をはじめ被災地を訪問することになりました。2012年度は、同志社中学校生徒会においては毎月11日の募金活動が、風間浦中学校生徒会では7月に宮古を訪問する取り組みがそれぞれ行われています。風間浦中学校では、工藤太校長のリーダーシップの下、訪問時だけでなくスカイプによる交流計画や交流20周年にあたり、今年の総合学習の時間に新島先生のことを学び懸賞論文に応募する取り組みも行われ、教育面における両校の交流の輪もますます広がっています。

20周年記念交流会での挨拶の中で紹介させていただいたことですが、1962年(昭和37年)夏、当時の同志社中学校校長、久永省一先生が村を訪問された記録が残されています。『同志社歳時記』ならびに「同志社で話したこと書



いたこと」に掲載)当時の久永先生は、30年後、1992年に風間浦村との交流が始まるとはとも想像されていなかったと思います。その意味でも、両校の交流は、「神の導き」「見える御手(Unseen Hand)」「摂理(Providence)」によるものであることを深く感じつつ、両校の今後の末永い交流の継続を願っています。

2012年10月13日(土)に開催される同志社フェアin風間浦では、本校父母の会より風間浦中学校へ「カタルバ(きささげ)」の苗木が贈呈される予定です。カタルバの木は、かつて新島先生がアメリカ土産として徳富蘇峰とその父一敬に贈った同志社にゆかりが深い木です。今回の苗木は、同志社小学校から分けていただいた苗木の一つで、新島先生が持ち帰られた種からすると5代目にあたります。

語学を伸長する カリキュラムの実施

とだ みつお
国際中学校・高等学校教諭 戸田光宣

新「学習指導要領」の告示にもない、本校は「教育理念（育てたい生徒像）」を基本として、新たなカリキュラムの編成にあたった。基本理念の中で授業に深く関わるのは以下の点である。

- ・多様なバックグラウンドをもった生徒一人ひとりに応じた教育の実現
- ・高度で詳細な知識の習得
- ・真のコミュニケーション能力の育成
- ・優れた語学力の育成（日本語



および外国語、とりわけ世界共通語としての英語」

「優れた語学力の育成」を目指すとき、帰国生徒に対しては、一般生徒と同様のカリキュラム環境では不十分である。また、多くの国内一般生徒が外国語の能力を伸張したいという希望を持つことを考えると、彼らにも、より充実した語学の授業を用意する必要がある。英語圏以外から帰国した生徒に対しては、習得した言語を継続して学ぶ機会を保証しなければなら

ないし、英語以外の言語に興味を持つている者には、それらを学ぶ機会を設ける必要がある。それら全てを実現することが、本校が設置する「選択科目」の趣旨に合うものである。

これら語学教育の充実と、さらには「高度で詳細な知識の習得」も視野に入れ、週あたり32時間（土曜日開校）の年間授業時間数のカリキュラムを編成した。

高校新校舎が完成

いちのかずやす
香里中学校・高等学校教諭 市野和康
創立60周年記念事業キャンパス整備計画建設委員長



尚志館外觀



八重庵

2010年に開始された、同志社香里創立60周年記念事業キャンパス整備計画における建設工事のうち、最大かつ本校の中心的建物である高校新校舎が2012年7月に竣工した。新校舎は、長年高校校舎として使用してきた校舎の名称をそのまま引き継ぎ、「尚志館」と名付けられた。

尚志館は高校普通教室21室と中

学、高校の教員室を備えると共に、多目的教室や社会科学教室、L1教室、和室「八重庵」、国際センター、文系4教科・数学科研究室、宗教部・生徒部教員室、生徒会室などが配置されている。多目的教室では可動間仕切りを用いることで、20人程度の小教室から150人程度の大会室まで対応し、カメラを用いて映像、音声を共有化すれば

最大300人までの同時授業も行うことができる。

8月28日には、創立60周年記念事業全体の竣工式が、尚志館多目的教室で執り行われた。9月1日からは、新校舎で2学期の授業が行われている。最新の施設と設備を得て、本校の学習・教育環境が一層充実していくことが大いに期待される。

ぬくもりの家の設置 一心の拠り所となる幼稚園を 目指して—

幼稚園

毎年春、園庭の片隅に薄紅色の可憐な花びらと甘酸っぱい香りが漂う姫リンゴの木があります。その側に、小さなログハウス「ぬくもりの家」が設置されました。時として園児の中に、上手く集団生活に入り込めない子どもがいます。その表情を察知し、子どもの心と向き合って対話する事で、すっきり晴れ晴れとした気持ちで集団に戻る事ができます。そこに入ると自分の居場所として温かく迎えられる事を実感できる空間を設置したい...というのが、「ぬくもりの家」設置の最初の願いでした。近年の傾向として、卒園後再び門をくぐる卒園生や、卒園後に子育てで迷いや悩みが生じた時に、心を休め、癒す場のひとつとして園を再訪してくれる卒園生保護者の存在があります。卒園後、数年、十数年、数十年...時間を経ても卒園生が幼稚園を心の拠り所として大切に思い続けてもらっていることを大変嬉しく思います。幼児期に



育んだ根っこを基盤とし、悩みなが様々な方向に枝を伸ばしていく子どもの成長過程を、このハウスの設置によって、卒園後もより一層ご家族に寄り添えるよう願っています。本園は、地域住民の「子育て支援センター」として京都市の指定を受け、子育て中の親子の孤立化を防ぐ等の役割を担い、定着しつつあります。木の香り漂うライブラリーとして、就園前親子



が絵本に触れあう場としても役がかっており、和やかな雰囲気がつきかきとなつて、子育ての悩みや迷いを語り合える場となる日もあります。保護者同士の繋がりを深める場所として、又在園児が絵本の世界に触れ、想像力や心の豊かさを育む空間として、日常の教育と並行しながら活用していきたい所存です。

ヤングアメリカンズ

小学校教諭 江藤—ブラウン 多恵

皆さん、「ヤングアメリカンズ」(以下、YA)という団体をご存知ですか? YAは、カリフォルニア州を拠点に「ミュージックアウトリーチ」という音楽的にも教育的にも素晴らしいワークショップを行っているグループです。そんな素敵なYAのメンバー48名とディレクター1名が5月23日・24日に小学校へお越しくださいました。ワークショップには4、5、6年生(計270名)が参加しましたが、レベルの高いお手本とテンポの良いレッスンとに導かれ、最初は躊躇していた児童もいつの間にか歌やダンスに夢中になっていました。まるで魔法をかけられたように表現がどんどん豊かで躍動的になっていくのには驚かされました。マスターした楽曲はビートルズやレディーガガからライオンキングまでと幅広く、最後のショーは2日間で創り上げたとは思えない程の完成度でした。詳しくは、小学校ウェブサイトをご覧ください。 <http://www.doshisha-clecd.jp/>

言語の違う2つのグループが理屈ではなく、感性で向き合うミュージックアウトリーチ。国際理解、コミュニケーション、自己表現などグローバルコミュニケーションの一員として必要とされるスキルを体得させてくれるこのワークショップは同志社の校風にピッタリだと思いませんか? いつかまたキャンパスのどこかでYAに会える日が来ることを楽しみにしています。



ソロをもらって練習中。コミュニケーションもバッチリ!



みんな、楽しそう!



ショー本番、オープニングのヒップホップダンスはすごい迫力!